

## TAMAフレイル予防プロジェクト 実績報告

## 1. 2021年度 結果の概要

2021年4月～2022年1月末まで実施したTFPP測定会における223名の参加者のうち、有効回答の得られた220名について集計した(表-1)。そのうち、セカンドチェックの対象者の割合は68.6%、地域包括支援センターのフォロー対象者(ファーストチェック8項目以上該当)は2.7%であった。

表-1

実施回数	参加人数(名)		平均年齢(歳)	セカンドチェック該当率(%)	包括フォロー対象者(名)
	男性	女性			
全9回	223 (内有効回答220)	75 147	76.3	68.6	6

図-1 測定参加者の年齢層

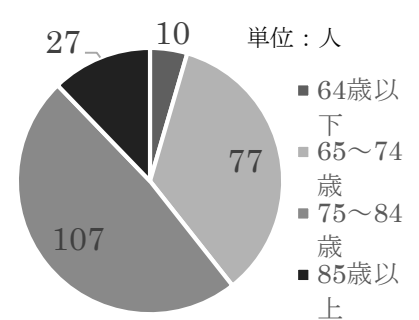
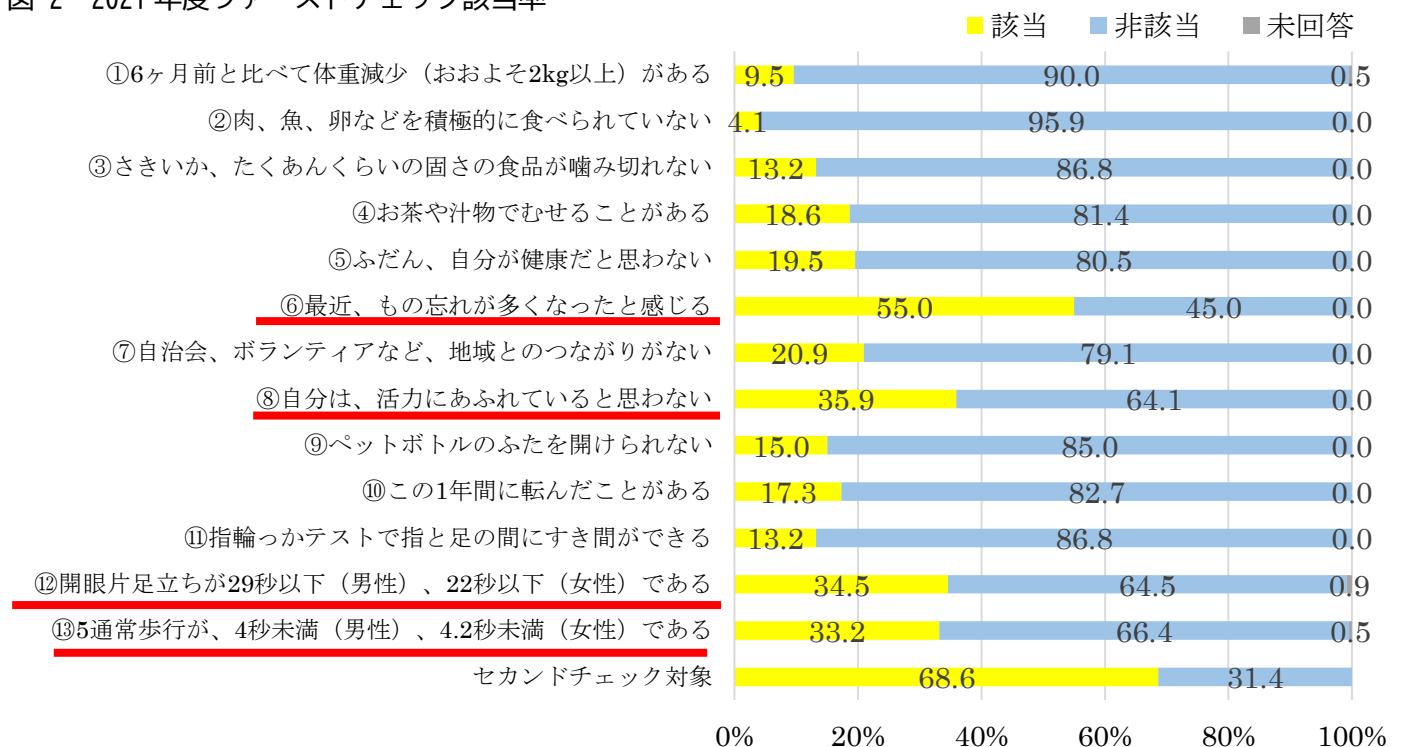


図-2 2021年度ファーストチェック該当率



## 2020-2021 年度と 2019 年度との比較

2019 年度は 526 名（男性 143 名、女性 383 名、平均年齢 76.7 歳）、2020-2021 年度は 318 名（男性 87 名、女性 230 名、未回答 1 名、平均年齢 77.4 歳）について集計した。新型コロナウイルス感染症流行前と流行後における、ファーストチェックの各質問項目の該当率比較を示した（図-3・図-4）。

- ① 「運動機能」の低下（図-3）が認められている。この要因は「開眼片足立ちのできる時間」「5m 通常歩行の時間」がともに基準値未満（図-4）によるものといえる。
- ② 「社会参画（自治会、ボランティアなど、地域の人とのつながりがあるか）」「心の状態（自分は活力にあふれていると思いますか）」の低下（図-3）が認められている。外出機会の減少により人とのつながりが希薄になり、心身の活力低下につながっていることが考えられる。
- ③ 「口腔機能」の低下（図-3）が認められた。これは「お茶や汁物でむせることがあるか」の結果（図-4）によるものといえる。
- ④ 「生活全般」（「ふだんご自分で健康だと思えますか？」）は向上（図-3）が認められている。これは、新型コロナウイルス感染症流行下での測定会であったため、積極的志向をもつ参加者が多く集まったと考えられる。

図-3 2019 年度と 2020-2021 年度とのファーストチェックの各領域の該当率比較

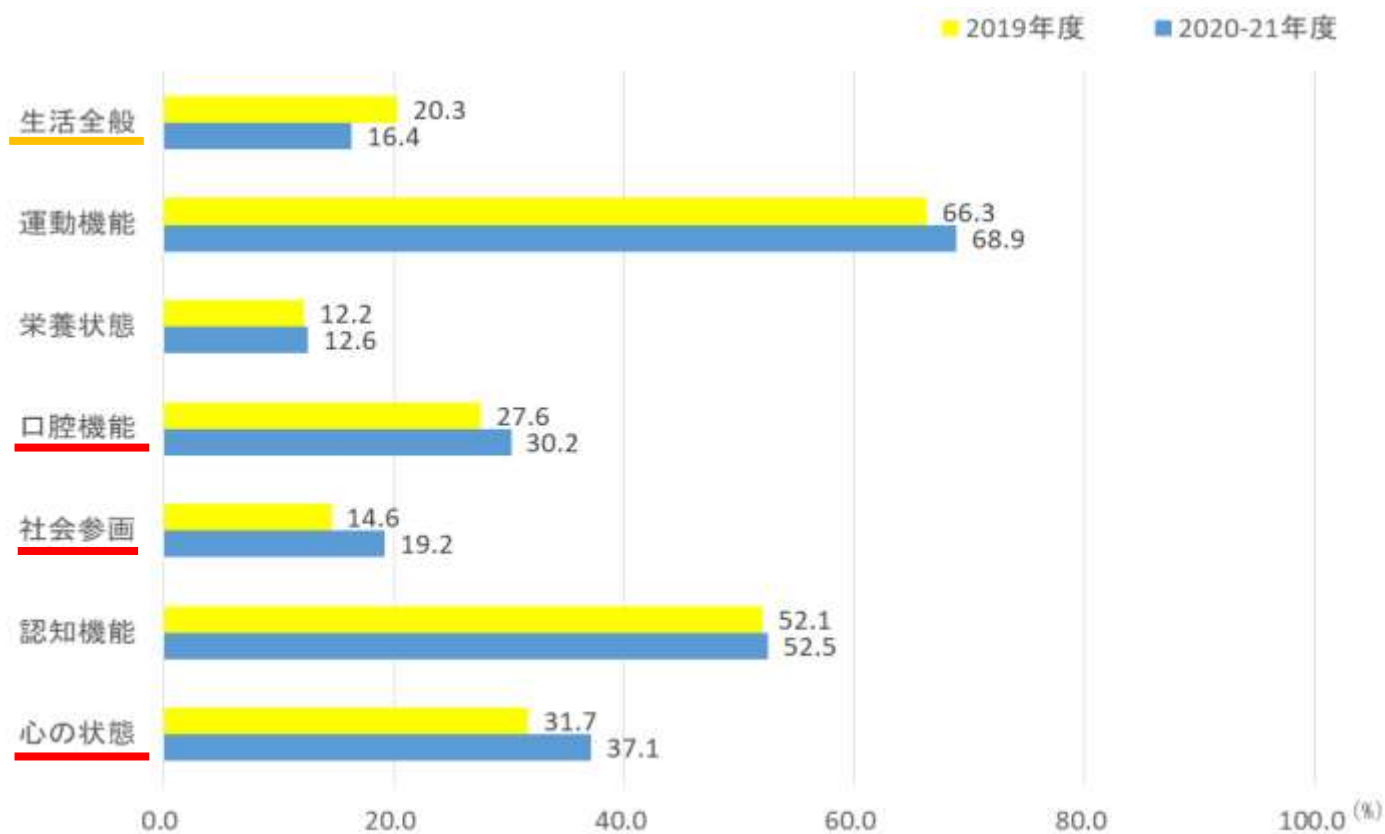


図-4 2019年度と2020-2021年度とのファーストチェックの各質問項目該当率比較

